

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

長岡市長 磯田 達伸

市町村名 (市町村コード)	長岡市 (152021)
地域名 (地域内農業集落名)	黒条地域 (下々条 高見 黒津 十二湯 川辺 天神)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年3月1日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

現状は、農地面積の約6割を5～60代の農業者でカバーしているが、10年後には、その農業者も歳をとるため、農地面積の約7割は70代が賅うことが見込まれる。基盤整備事業を活用するが、後継者不足は今後も課題。

(2) 地域における農業の将来の在り方

主たる作物は水稻。基盤整備事業を契機に園芸作物(枝豆)も取り入れる。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	387.69 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	313.71 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地(青地)を対象農地とする。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
黒津地域においては、法人化をし、農地の集積・集約をおこなった。今後も、法人や組織の設立等により、農地の集約化を進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
農地の権利設定においては、中間管理機構を活用し、今後、機構関連型の基盤整備事業を実施する。
(3)基盤整備事業への取組方針
今後基盤整備事業を活用していく。(経営体育成基盤整備事業・機構関連型)
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
後継者の期待が薄い高見地域では、生産組合や法人等の設立を視野に入れる。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input type="checkbox"/>	①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/>	②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/>	③スマート農業	<input type="checkbox"/>	④輸出	<input type="checkbox"/>	⑤果樹等
<input type="checkbox"/>	⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/>	⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/>	⑧農業用施設	<input type="checkbox"/>	⑨耕畜連携	<input type="checkbox"/>	⑩その他

【選択した上記の取組方針】

--